美的生活論とニイチエ

登張竹風

青空文庫

高山君の「美的生活論」を一読せる吾等は、不覚拍案快哉を呼び、心窃かに以為らく。これ実に空谷の跫音也、現代の文士は両手を挙げて之を賛すべしと、然れども事実は此の如くならざりき。これそも〳〵何の故ぞ。

吾等は吾国批評家の文を読むごとに、その論難の多くは、語の概念の争に止まり、議論の大体に通ずること少なきを歎ぜざる能はず。漫に自己の心を以て他人を忖度し揣摩臆測を以て無用の文字を重ね、恰かも群盲の鼎を評するが如き観あるは、実に今の批評家の通弊に非ずや。

吾等の見る所を以てせば、高山君の「美的生活論」は、明かにニイチエの説にその根拠を有す。さればニイチエが学説の一斑に通ずるものに非ずんば、到底その本意を解し難し、況んやその妙味をや。

高山君曰く、人生の幸福は本能の満足にあり、本能とは人性本然の要求是也と。

ニイチエといふ文字を用ゐるを好まざりき。然れども彼も亦高山君と同じく、本能を以てその人生観の基礎となせり。然らば則ち本能とは何ぞや、ニイチエなり。（Instinkt der Freiheit）彼が道徳に反抗し、法律を無視し、社会の制度を侮蔑せるは、一に唯かの自由の本能の発達を冀ふが為のみ。

高山君は自由の語を放たざりき。然れども、その所謂本能は自由の本能なることは、また疑を容るゝを要せざるなり。何が故に善徳を修め智識を研くよりも、一盞の美酒を捧さげて清風江月に対するが、本能の満足に適へるか。後者の前者よりも自由なるがために非ずや。彼には桎梏あり、此にはこれなきがために非ずや。何が故に慈善に狂するよりも、佳人と携へて名手の楽を聴くが、本能の満足に適へりや。彼には束縛あり。此には自由あるがために非ずや。

然らば高山君は何等の根拠に基きて、かゝる自由の本能の満足を以て美的生活と呼べるか。ニイチエは以為らく。余に向ては余が美しと思惟し能ふものゝみ美なり。余が官能に媚び余が自我心に服従するものゝみ美なり。世間一般の煩瑣なる芸術の法則の如き、余に於て何かあらむと。

高山君の本能の満足を以て、美的生活と呼べる所以は、ニイチエがこの語を知らざるものゝ解すること能はざる所ならむ。

高山君は、何が故に戮力を要して成れる道徳を以て虚偽なりとなし、悪心あるものとなせるか。ニイチエ（das schlechte Gewissen）を知らざるものは、またこの意義を解することを得じ。（拙著ニイチエと二詩人参照）

高山君は、智識道徳を以て相対的価値あるものとなし、本能を以て絶対的価値を有するものとなせり。ニイチエ、一切のもの凡べて許さる」の警語は、明かに同様の意義を表するものに非ずや。

高山君の論を読むものは、またその論のニイチエなるを忘るべからず。

吾等は「美的生活論」を読みて、徹頭徹尾賛同の意を表するものなり。今日の世は実に科学万能の世なり、智識全権の世なり、倫理教育全盛の時代なり、而して人間固有の本能殊に自由なる本能を蔑視する時代なり。かゝる世に向て「美的生活論」を標榜し、大に人生本能の発達満足を説く。豈に偉ならずや。

読売新聞の長谷川天渓君が、「美的生活論」に対する批評は、要するに高山君のニイチエの本能にあらざればなり。天渓君また問ふて

曰く、色情の奴隷が異性を追い廻すも亦美的生活なるかと。吾等は以為らく然り、そが人間自由の本能を満足せしむるに限り美也と。高山君の美的生活論を解せむと思はむ者は、またニイチエを解せざるべからず。ニイチエ、道徳その者を以て個人の権能を満足せしむるものと思惟せる人々を指さして言へるものと解するを得べからざるか。ニイチエが智識及道徳を罵れるは、知識道徳その者を憎むに非ずして、知識及道徳が人類本来の自由の本能及威力の意志を圧倒するが為なり。されば学者及道徳家にして、その知識及道徳に絶対的価値を賦与し、自から威武も屈する能はず、富貴も淫する能はざる大勇猛心を有するに至らば、其威力の意志は、芸術家のそれと毫も異なる所なし。之を美的生活といふ、何の妨かあらむ。ニイチエ曰く、芸術（Kunst）は能ふ（〔Ko:nnen〕）の語より出づ、されば芸術家の誇るべきは、自己の技能のいかばかり大なるかを自識する所に存す。その製作品の、自己及他人の為に愉快なるか否やは問ふを要せざる所なりと。道徳家及学者のこれと同様なる信念を有し、同様なる精進をなすに至れば、之を以て美的生活なりといふ可ならんか。高山君の謂ふ所を以て、ニイチエの説に配すれば、論の趣く所実に此の如くならざるを得ざる也。

新文芸記者は、能力の自覚を以て、美的生活に到達する方便なりとなし、縷々数千言を費やし、例を古今東西に引用し、その論を明かにせり。吾等にして誤るなくんば、記者が能力自覚説は期せずしてニイチエが威力の意志説と符節を合するが如し。非乎。天渓君の提供せる幾多の質問は、以上の論を以て凡べて解釈せらるべきを信ず。之を要するに美的生活論は、近来最も痛快なる論文なり。唯本能といひ、悪心といひ、美的といふが如き用語例の、頗る従来の意義と相異なれるが為に、幾多読者の、その真意を解するに至らず、為めに批評家等の誤解を来たし、彼等をして敵なきに矢を放たしむるに至りたるが如きは、吾等窃かに高山君の為に遺憾とする所なり。吾等が美的生活論に対する卑見は、実の此の如し。若し不幸にして、高山君の真意は茲にあらずして、他に存することあらば、読者は吾等の卑見を以て、吾等が美的生活論と思惟せむも妨なし。

青空文庫情報

底本：「近代浪漫派文庫　14　登張竹風　生田長江」新学社
　　2006（平成18）年3月12日初版発行
入力：田中敬三
校正：門田裕志
2009年11月13日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

美的生活論とニイチエ

登張竹風

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/